

平成26年度
社会福祉法人東員町社会福祉協議会 事業報告書

社会福祉法人東員町社会福祉協議会

1. 法人運営部門

地域福祉を推進する事業を確実に効果的に行うために、①評議員選任規程を改正し、市民活動家、医療関係者、商工・企業関係者に新たに評議員を委嘱した。②地域に行き届いて社協及び地域福祉の説明を行った。③事業推進体制を整理し、組織としての意思決定の経路を明確にした。④③を实践するため、個人のスキルアップ研修だけでなく、組織として業務を考えるための研修を行った。また、新会計基準に移行するため規程を改正した。

実施項目	概要
1 理事会・評議員会の開催・監査の実施	<p>(1)理事会 年4回開催した。自治会長会会長に理事に就任いただくための手続きを開始した。</p> <p>① 5月27日(火) 職務代理者の指名 平成25年度事業報告 平成25年度一般会計決算・監査報告 定款の変更(特定相談支援事業・配食サービスの追加) 評議員の補充選任 あり方検証委員の選任 平成26年度一般会計収支補正予算案について</p> <p>② 9月18日(木) 平成26年度事業経過報告 あり方検証委員会での指摘事項について 平成27年度共同募金配分金事業の申請について 福祉基金・積立金について</p> <p>③ 12月24日(水) 定款の変更について(障害児相談支援事業・日中一時支援事業の追加・役員の定数変更) 給与規程の改正について(給料表の改定) 臨時職員等就業規則について(看護師賃金の改定. 理学療法士・作業療法士枠の新設) 平成26年度一般会計収支補正予算案について</p> <p>④ 平成27年3月26日(木) 経理規程の改正について(新会計基準への移行) 給与規程の改正について(給料表の移行) 臨時職員等就業規則について(処遇改善手当の支給方法の変更) 基金及び積立金規程の制定について 評議員の補充選任 平成27年度事業計画(案)について 平成27年度一般会計収支予算(案)について 平成27年度予算中のサービス区分間内流用と予備費の充用について</p> <p>(2)理事研修 理事が運営判断をするための材料として、以下の研修を行った。 * 講習</p>

開催日 10月8日(水)
会場 東員町ふれあいセンター 1階 サロン
テーマ 『社協における公的サービスの役割と未来』

*参加

開催日 平成27年2月21日(土)
会場 高島市ガリバーホール
テーマ 『見守りフォーラム』

(3)評議員会

新たな選任規程による評議員21名。自治会長、福祉・医療事業者、市民活動家等に評議員を委嘱した。年3回開催した。

[委嘱期間：平成26年4月1日～平成28年3月31日]

① 5月27日(火)

委嘱状交付
平成25年度事業報告
平成25年度一般会計決算・監査報告
定款の変更(特定相談支援事業・配食サービスの追加)
平成26年度一般会計収支補正予算案について

② 12月24日(水)

定款の変更について(障害児相談支援事業・日中一時支援事業の追加・役員の定数変更)
平成26年度一般会計収支補正予算案について

③ 平成27年3月30日(月)

理事及び監事の選任について(任期満了)
平成27年度事業計画(案)について
平成27年度一般会計収支予算(案)について
平成27年度予算中のサービス区分間内流用と予備費の充用について

(4)監査

① 5月21日(木) 平成25年度事業報告・一般会計収支決算の監査

② 12月10日(木) 平成26年度前期事業経過・一般会計収支の監査

2 戸別会員・特別会員の募集

全戸加入を目標に広報した。また、機会を作って地域に出かけ、会員加入を呼び掛けた。

① 戸別会費は5月に実施し、2,897,338円の会費をいただいた。昨年度と比較し、53,499円の減額となった。5795世帯(加入世帯率64.0%)

② 特別会費は、7月から8月にかけて実施し、824,000円(824口)の会費をいただいた。昨年度と比較して20,000円の増額となった。

③ 地域の自治会の集まりや敬老会行事、シニアカレッジ等で社協の役割と実施事業を説明した。

(7/31シニアカレッジ, 9/14笹尾東4丁目自治会, 八幡新田自治会,
10/23長深自治会, 12/12鳥取長寿会, 3/27山田共栄会)

全自治会の82%で説明した。

④ 会費制について全職員が説明できるよう徹底した。

3	個人情報保護の徹底	個人情報保護規程に基づき、全職員が適切に対応した。
4	苦情・要望の受付	<p>苦情件数 8件 申出人 6名(内、匿名3名)</p> <p>① 特別会費の納入場所について</p> <p>② 特別会費の納入方法について</p> <p>③ ふれあい型配食サービスのボランティアの守秘について</p> <p>④ 心配ごと相談員の対応について</p> <p>⑤ 民生委員の守秘義務について</p> <p>⑥ -1 会費の納入について</p> <p>-2 広報の仕方について</p> <p>-3 デイサービスの送迎にかかる騒音について</p>
5	事務局体制の充実	<p>会議運営要領を策定して会議体系を整理し意思決定の道筋を明確にした。</p> <p>① 役員会議</p> <p>主任以上が集まり、会長局長から方針を聞き、現状報告をした。</p> <p>4月11日(金) 各係がその役割を果たせるよう業務分掌を見直した。</p> <p>7月30日(水) あり方検証委員会について、経理規程改正について</p> <p>8月27日(水) あり方検証委員会での指摘事項について</p> <p>10月6日(月) 福祉有償運送について</p> <p>11月12日(水) 定款変更、福祉のつどいについて</p> <p>12月22日(月) ふくしdeまちづくりプロジェクトの進行について</p> <p>平成27年</p> <p>2月9日(月) 社協内会議の体系について、制度改正について</p> <p>② 総務福祉係会議</p> <p>地域福祉活動にあたっての課題を考察し解決した。</p> <p>5月1日(木) 27年度共同募金事業について</p> <p>5月19日(月) 27年度共同募金事業について</p> <p>6月10日(火) 地域福祉推進協議会について</p> <p>6月17日(火) 地域福祉推進協議会委員の公募、助成について</p> <p>7月7日(月) 高島市研修、福祉のつどいについて</p> <p>7月24日(木) アクションプランの修正、座談会の拡大の仕方</p> <p>経理規程改正について</p> <p>9月8日(月) アクションプランの修正について</p> <p>9月30日(火) 事業評価と予算、担い手養成について</p> <p>平成27年</p> <p>1月15日(木) ふくしdeまちづくりプロジェクトの進め方(座談会)</p> <p>1月27日(火) ふくしdeまちづくりプロジェクトの進め方(座談会開催から活動までのアプローチの手順の見直し、広報)</p> <p>3月12日(木) 27年度事業、支え合い制度について</p> <p>③ 連絡会</p> <p>毎週1回、各部署の代表が集まり業務進捗状況を報告しあい、意思疎通を向上させた。</p> <p>④ 社協内会議の体系化</p> <p>会議運営要領を策定し2月から運用した。</p>

		会議名	出席者	開催頻度	主な目的
		運営会議	会長、事務局長、係長	毎月第1(月)	決定
		局長係長会議	事務局長、係長	随時	検討
		役員会議	会長及び主任以上の職員	4・8・11・2月の(金)	検討
		連絡会	事務局長、係長、主任	毎週1回	共有
6	社協事業の適正化	事業評価実施要領を作成し、10月から全業務を事業評価票によって以下の視点で評価した。 <ul style="list-style-type: none"> * 地域福祉の向上を目指す事業であるか * 社会情勢の変化など時の経過に即した事業実施になっているか * 他の社協に比較しサービスの対象や水準はほぼ妥当であるか * 費用対効果を考慮した事業実施になっているか。 			
7	あり方検証委員会の開催	あり方検証委員会を2回開催した。 ① 8月12日(火) 組織運営の強化(理事会・評議員会)、会員の充実、小地域福祉活動権利擁護(法人後見)の内容について話し合われた。 ② 平成27年3月6日(金) 地域福祉座談会の拡大について、法人後見について、研修計画について、福祉有償運送について話し合われた。			
8	防災委員会の実施	避難訓練を年2回実施した。1回は職員のみで、安全な誘導方法の検討を行い、2回目は一般来場者やデイサービス利用者にも協力を得て避難訓練を実施した。			
9	職員のスキルアップ	研修を受講し、実務に役立つ知識や技術の修得を図るとともに職員の意欲向上につなげた。また、効率的に業務を行うための技術を学ぶ講習を行った ① 9月26日(金) 数値化しにくい業務の評価方法と根拠に基づいて改善するためのスキルを学ぶ研修 内容 : 講習『仕事の質を高めるためのPDCA』 講師 : (株)シンクアクト 志賀 弘幸氏 参加者 : 全部署の正規職員 ② 10月8日(水) 社協における公的サービスの位置づけを学ぶ研修 内容 : 講習『社協における公的サービスの役割と未来』 講師 : 菰野町社会福祉協議会 常務理事兼事務局長 福田雅文氏 参加者 : 全職員、理事、社協に関連する役場職員			
10	役職員の倫理の向上	社協役職員としての法令遵守・人権意識の向上を図るために、東員町主催人権研修への参加を計画していたが、講師の体調不良により中止。			
11	新会計基準の移行準備	平成27年度から新会計基準を導入できるよう、経理規程を改正した。 ① 7月14日三重県主催 7月22日 三重県社協主催の会計研修に出席 ② 8月27日桑名市社協と情報交換 ③ 平成26年12月24日理事会で経理規程原案を示す。 ④ 平成27年3月26日理事会で経理規程を改正した。			
12	寄付金の受付及び管理	ご寄付者名を『広報とういん』に掲載した。 寄附金額 2,392,009円(昨年比80.5%)			

13	日本赤十字社 社費増強運動 の実施	<p>日本赤十字社強化月間に、町内で啓発した。</p> <p>① 啓発活動 5月14日(水) 三岐鉄道北勢線 東員駅 穴太駅 三重交通城山バス停</p> <p>② 社費の募集 * 5月 自治会長会で説明し募集 平成26年度実績額 2,886,955円(目標額3,344,000円) 特別社員1名</p>
14	福祉基金の使 途の明確化 【新規】	平成26年12月24日開催の理事会で積立額の前案を示し、平成27年3月26日の理事会において基金及び積立金規程を制定した。
15	東員町ふれあ いセンターの 管理運営に対 する協力	<p>利用者が快適に施設を利用できるよう行政に協力した。</p> <p>* 利用申請の受付や終了報告書の受領 * 自動販売機の管理 * 貸し室・券売機の管理 * 利用状況の集計・清掃 * 土曜日開館のための日直配置 * 各種点検の実施や水漏れ工事等の対応</p>

II. 地域福祉活動推進部門

『ふくしdeまちづくりプロジェクト』として地域福祉を総合的に推進する体制を作り実施した。昨年度から開催している地域福祉座談会には具体的な活動を提案、実施を援助し、新たに開催した座談会には地域の課題発見と潜在的力の再発見を促した。地域福祉推進の素地になる地域福祉の概念を普及するために福祉のつどいを開催し、さらに座談会への関心を高めるために高島市社会福祉協議会を訪問して活動者から具体的に学ぶ研修を企画した。地域福祉活動を担う人材育成の観点から、シニアカレッジや座談会を活発に運営する技術を学ぶファシリテーション・広報のセミナーを行った。座談会活動を通して浮き彫りになった個人情報の問題に対しては活動者と共に県・消費者庁主催の講習を受講し、取り扱いのガイドを作成した。さらに地域福祉座談会を拡大するため『地域福祉座談会のすすめ』リーフレットを作成した。今後も、継続して地域福祉への理解者、活動者を増やしていく。

【共】＝共同募金配分金事業

実施項目	概要																		
1 福祉のつどい	<p>“ふだんの暮らしを幸せに営むための福祉”という概念を伝え、多様性を地域に受け入れ共に暮らしていく機運を醸成することを目的に参加型セミナーを開催した。</p> <p>日時 11月15日(土) 9:30～12:00</p> <p>会場 東員町保健福祉センター ホール</p> <p>テーマ 地域での支えあいについてみんなで考えてみよう!</p> <p>講師 高蔵寺ニュータウン再生市民会議 元代表理事 曾田忠宏 氏</p> <p>参加者 74名 (理事1名 自治会長1名 町議会議員7名 民生委員19名) シニアカレッジ受講生を含む一般46名)</p>																		
2 障がい児者のつどい【共】	<p>「一人ひとりが輝くために、みんなの想いを分かち合おう!」をテーマに東員障がい児者友の会との共催で、映画上映会を開催した。</p> <p>日時 平成27年3月21日(土) 15:20～16:50</p> <p>会場 保健福祉センター ホール</p> <p>内容 映画『普通に生きる～自立を目指して～』上映会</p> <p>参加者 92名 ※「共同募金のつどい」と併催した</p>																		
3 広報 『ふくしのわ』	<p>① 『ふくしのわ』</p> <p>4月18日 7月4日 10月3日 1月16日に発行し、地域福祉座談会の取組内容や、ふくしdeまちづくりプロジェクトについて広報を行った。また、地域の活動情報をより多く掲載するよう努めた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>発行日</th> <th colspan="2">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">4月18日</td> <td>表紙</td> <td>シニアカレッジ</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>平成26年度事業計画・予算 社協会費・日赤社費 介護者リフレッシュ事業募集 共同募金会からのお知らせ</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">7月4日</td> <td>表紙</td> <td>地域福祉座談会開催</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>平成25年度事業報告・決算 特別会費募集 勤労体験学習 ふくしdeまちづくりプロジェクト</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">10月3日</td> <td>表紙</td> <td>地域のつながりときずな(敬老会)</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>社協戸別会費と日赤社費の報告 共同募金 権利擁護事業 リフレッシュ講座</td> </tr> </tbody> </table>	発行日	内容		4月18日	表紙	シニアカレッジ	内容	平成26年度事業計画・予算 社協会費・日赤社費 介護者リフレッシュ事業募集 共同募金会からのお知らせ	7月4日	表紙	地域福祉座談会開催	内容	平成25年度事業報告・決算 特別会費募集 勤労体験学習 ふくしdeまちづくりプロジェクト	10月3日	表紙	地域のつながりときずな(敬老会)	内容	社協戸別会費と日赤社費の報告 共同募金 権利擁護事業 リフレッシュ講座
発行日	内容																		
4月18日	表紙	シニアカレッジ																	
	内容	平成26年度事業計画・予算 社協会費・日赤社費 介護者リフレッシュ事業募集 共同募金会からのお知らせ																	
7月4日	表紙	地域福祉座談会開催																	
	内容	平成25年度事業報告・決算 特別会費募集 勤労体験学習 ふくしdeまちづくりプロジェクト																	
10月3日	表紙	地域のつながりときずな(敬老会)																	
	内容	社協戸別会費と日赤社費の報告 共同募金 権利擁護事業 リフレッシュ講座																	

	表紙	東員第一中学校吹奏楽部
1月16日	内容	勤労体験学習 福祉のつどい実施報告 特別会費のお礼 イベント案内

ホームページ	② ホームページ つながりの重要性を多くの人にPRし、東員町における福祉関連のポータルサイトを目指して、ホームページを運営した。 アクセス件数 70,696件
その他	③ 『地域福祉座談会のすすめ』リーフレット作成 地域福祉座談会を町内に拡大するため、取り組みの目的、手順、活動者の声を掲載したリーフレットを作成した。 ④ 自治会長会で説明 8月19日(火)、8月21日(木) 地域福祉座談会と地域福祉活動推進助成の説明を行った。 ⑤ 東員町議会教育民生常任委員会との懇談会 5月15日(木) 教育民生常任委員会の議員と懇談した。
4 民生委員児童委員協議会との協働による住民の関係づくり	民生委員児童委員協議会の事務局を担い、民生委員児童委員協議会と共にひとり暮らし高齢者の困りごと把握と分析を行った。 ① 4月 アンケート調査 ② 7月～ 分析及び分析(ニーズ)によって開始した活動 神田・・・困りごとの上位3つのこと、食事、家事、移送を提供する民間サービスの情報を表にまとめた。 稲部三和・・・ひとり暮らし高齢者と地域の子どもの交流会を企画することになった。 城山・・・日中ひとりになる高齢者がいる世帯にチラシを配り、関係づくりを始めた。
5 地域福祉座談会 (小地域福祉活動) 【一部共】	地域の多様な人が出会ってそれぞれの立場を理解し合い、「暮らしにくさ」を抱えている人や自分たちの潜在的な力に気づく機会をつくる。 共感した「暮らしにくさ」に対して、地域住民が自分たちの力を動員、また創意工夫して解決に取り組む機会をつくる。 (1)地域福祉座談会の開催 * 座談会開催地区(全自治会の約21%で実施) 筑紫地区 <small>今年度から</small> 瀬古泉地区 <small>今年度から</small> 八幡新田地区 <small>今年度から</small> 中上地区 笹尾東4丁目地区 ① 筑紫 11月13日(木) 趣旨説明、暮らしの現状について 12月16日(火) 趣旨確認、今後の活動について 平成27年 1月17日(土) 趣旨確認、暮らしの現状と今後の活動について

② 瀬古泉

- 6月6日(金) 顔合わせ交流. 地域の特性について
7月15日(火) 気にかかる人の情報共有
8月26日(火) 気にかかる人の情報共有、進め方について
10月4日(土) 地域活動をしている4団体から初めて参加あり
新しい参加者を迎えて今後の活動について
11月8日(土) 高島市視察研修のふりかえり・伝達
今後の取り組みについて
12月6日(土) 気にかかる人・気になることの情報共有
見守り活動の意義と初集会での案内について
平成27年
1月31日(土) 気にかかる人・気になることの情報共有
初集会での取組発表と反響
3月7日(土) 瀬古泉の共通の課題を協議
会の名称の決定「瀬古泉の暮らしを考える会」
代表・副代表の選出

③ 八幡新田

- 10月16日(木) 趣旨説明、暮らしの現状について
12月16日(火) 見守り活動と座談会メンバーについて
平成27年
2月26日(木) 趣旨確認、今後について
3月17日(火) 自己紹介、趣旨確認、今後について

④ 中上

- 4月16日(水) 今後の進め方について
6月11日(水) 収集した困りごとについて
8月4日(月) 気にかかる人、気になることについて
9月24日(水) 気にかかる人、見守り運動について
10月24日(金) 気にかかる人、見守り運動について
11月26日(水) 気にかかる人、見守り運動のPRについて
12月8日(月) 気にかかる人、運動PR紙の作成について
平成27年
1月28日(水) 気にかかる人、運動PR紙の反響について
3月4日(水) 気にかかる人、運動PR活動、今後について

⑤ 笹尾東4丁目

- 5月24日(土) 今後の見守り隊の進め方について
6月28日(土) 夏休みラジオ体操 敬老会について
8月22日(金) ラジオ体操の振り返り 敬老会について
11月5日(水) 先進地研修の伝達・感想、今後の取り組みについて
平成27年
1月31日(土) 見守り希望者と見守り隊について
3月26日(木) 見守り希望者へのアンケートの実施について

	<p>(2)職員用マニュアルの作成 マニュアルの内容の検討を通して、職員全体で座談会の趣旨、手法を具体的に考え、調整した。</p>
6 担い手養成 【一部共】	<p>地域福祉座談会<small>(小地域福祉活動)</small>を町内に拡大するため、先進地に出かけて地域福祉推進の意義と活動の具体例を学んだ。さらに、関心を持った参加者がいる地区に働きかけ、座談会を開始した。また、活動者が座談会を盛り上げるための技術や活動を拡大するための手法を学ぶ講座を開催した。</p> <p>(1)研修</p> <p>① 地域福祉座談会開催地区の関係者等の先進地視察研修 開催日 10月27日(月) 研修先 高島市社会福祉協議会 テーマ 見守りネットワーク活動の実際 参加者 47名(自治会長9名、シニアクラブ20名、民生委員18名)</p> <p>② 個人情報保護研修 開催日 2月6日(金) 研修先 三重県総合文化センター テーマ 個人情報保護法説明会(三重県情報公開課・消費者庁主催) 参加者 座談会活動者・地域活動者27名</p> <p>③ 伝えるコツを身につけよう！暮らしを良くする広報セミナー 日 時 平成27年2月24日(火) 10:00～16:00 会 場 東員町ふれあいセンター 2階 研修室 テーマ 伝えるコツを身に付けよう (広報の基礎知識及び動画の取り方・編集方法) 講 師 ボノポ代表 森谷哲也氏 参加者 19名</p> <p>④ 話し合いをもっと楽しくするコツ ファシリテーションセミナー 日 時 平成27年3月28日(土) 13:30～16:30 会 場 東員町役場西庁舎 2階 会議室 テーマ ファシリテーションの基礎 講 師 大阪ボランティア協会事務局主幹 岡村こず恵氏 参加者 24名</p> <p>(2)情報提供</p> <p>① 個人情報保護のガイド 活動を通して知り得た個人情報を保護するためのガイドを作成し、座談会活動者に配布して説明した。</p>
7 活動支援 【共】	<p>ふくしdeまちづくりプロジェクト地域福祉活動を推進するための助成や環境の整備を行った。</p> <p>(1)地域福祉活動推進助成の実施</p> <p>① 当事者団体・福祉種別団体に対する活動助成 団体の目的達成に要する経費の一部を助成した。 * 助成先 東員町民生委員児童委員協議会、東員町福祉事業所連絡協議会、東員障がい児者親の会、東員町共同募金委員会、いなべ地区視覚障害</p>

	<p>者協会、東員町遺族会</p> <p>② 地域福祉課題解決助成の実施 地域福祉座談会を通じて生まれた活動に要する経費の一部を助成した。</p> <p>* 助成先 中上自治会 41,000円 見守り活動の啓発に使うチラシ作成代 瀬古泉自治会 50,000円 地域への活動報告・活動PRのためのプロジェクター購入代 笹尾東4丁目自治会 49,000円 子どもと地域のみなさんのラジオ体操をするための拡声器・CDラジカセ購入代</p> <p>(2)環境の整備</p> <p>① 事務作業応援コーナー 地域福祉活動に取り組む個人、団体が自由に使用できる事務作業コーナーを設置し、利用を促進した。</p> <p>* 複合機の利用実績/白黒1,416枚 カラー189枚</p> <p>② ボランティア保険 安心して活動するため、ボランティア活動保険の加入を勧めた。</p> <p>* ボランティア活動保険加入実績/662件</p>
8	<p>地域福祉推進協議会</p> <p>小地域福祉活動を推進するため、座談会関係者、地域福祉関係者が日頃の活動状況を報告しあい、知恵を共有した。</p> <p>① 日 時 11月26日(水) 19:00~20:30 会 場 ふれあいセンター 研修室 テーマ 活動紹介と情報交換 参加者 地域福祉座談会代表等10人 (地域福祉座談会代表5名、民生委員2名、シニアクラブ2名、シルバー人材センター1名)</p> <p>② 日 時 3月13日(金) 会 場 ふれあいセンター 研修室 テーマ 個人情報保護に関する情報交換など 参加者 地域福祉座談会代表等12人 (地域福祉座談会代表7名、民生委員2名、シニアクラブ2名、シルバー人材センター1名)</p>
9	<p>社協行政連絡調整会議</p> <p>ほぼ月1回の頻度で役場生活福祉部の全課と社協の実務者が集まり、ふくしdeまちづくりプロジェクト(小地域福祉活動)の推進について協議した。当会議出席者で高島市社会福祉協議会へ研修に出かけ、目指すところを社協と行政が具体的にイメージできるようした。さらに、生活福祉部が抱える地域福祉に関する課題が出された。</p> <p>6月18日(水) ふくしdeまちづくりプロジェクトの推進体制 福祉のつどいについて</p> <p>7月17日(木) 地推協・座談会の開催状況、担い手養成 (高島市視察研修)について</p> <p>8月13日(水) 地推協・座談会の開催状況、個別ケースへの対応</p>

		<p>について</p> <p>9月25日(木) 高島市社協で小地域福祉活動の研修 (連絡調整会議メンバー6名参加)</p> <p>10月7日(火) 高島市研修の成果(小地域福祉活動の進め方) について</p> <p>11月4日(火) 27年度の社協事業について、福祉のつどいについ て</p> <p>12月25日(木) 横断的総合的に解決を図る体制について 複合的な課題を抱えるケースに対し横断・総合的に 解決をはかれるように、体制について話し合う。</p> <p>1月23日(金) 地推協、助成事業の修正について</p>
10	地域福祉施策 検討会議	<p>役場生活福祉部全課の課長と社協局長が集まり、社協の地域福祉事業の方向性について意見交換した。</p> <p>* 7月11日(金) 地域福祉座談会、地域福祉活動推進助成事業 についてなど</p> <p>* 平成27年 1月20日(火) 平成26年度の事業と27年度の事業について</p>
11	ひとり暮らし 高齢者交流会 【共】	<p>在宅のひとり暮らし高齢者を対象に交流を通じた閉じこもり防止や孤独感の解消、仲間づくりの機会を提供した。今年度から地域で開催した。徒歩や自転車で行ける場所での開催、自力での参加が困難な方の送迎、を行い参加者は従来より増加した。</p> <p>委託先 東員町民生委員児童委員協議会</p> <p>日 時 10月下旬～11月下旬に各校区で開催</p> <p>会 場 各校区内の集会所等</p> <p>参加者 137名(昨年比173%)</p> <p>内 容 認知症の学習、踊り・三味線鑑賞等</p> <p>※ 高齢者福祉部会・社協と打ち合わせ(8/26)</p>
12	生活支援型配 食サービス事 業【受託- 町】	<p>在宅のひとり暮らし高齢者や要援護高齢者等に昼食を配達するとともに安否確認を行い、留守の場合は自宅への訪問を行った。</p> <p>(1)配食</p> <p>* 委託先/社会福祉法人いずみ</p> <p>* 月曜日から金曜日の中で希望する日</p> <p>* 個人負担金 300円</p> <p>* 利用者数5,528食 利用登録者41名 利用実人数1日平均32人</p> <p>(2)安否確認</p> <p>配達時に留守で安否確認した件数 17件</p> <p>家族・民生委員に連絡した件数 4件</p>
13	ふれあい型配 食サービス事 業【共】	<p>ひとり暮らし高齢者を中心とした対象者に、ふれあいを目的に昼食を配達した。</p> <p>(1)配食</p> <p>* ボランティアが調理・配達 ※一部業者委託</p> <p>* 第2・4火曜日と第1～4金曜日の希望する日</p> <p>* 個人負担金 300円</p>

		<p>* 利用者数1,383食 利用登録者34名 利用実人数1日平均 25人</p> <p>(2)安否確認 配達時に留守で安否確認した件数 7件 家族・民生委員に連絡した件数 4件</p> <p>(3)食中毒講習会 調理に関わるボランティアを対象に実施した。 日 時 平成26年6月16日(月) 内 容 食中毒を防ぐための食品衛生 講 師 桑名保健所 参加者 わくわくボランティア及び東員町食生活推進協議会の方々</p>
14	シニアカレッジ	<p>シニアカレッジ卒業生が地域活動のリーダーになるよう、地域福祉の“人づくり”の観点で実施した。</p> <p>開催日 6月～3月までの月1回 会 場 保健福祉センター等 受講生 38名 内 容 地域デビューについて(美し国おこし三重)、地域見守り活動の実際(京都市社協)、東員町の支え合い(東員町社協)、地域の実践例(いなべ市篠立地区自治会)、東員町の高齢化の現状(東員町役場)</p>
15	介護予防事業 【受託-町】	<p>はつらつと暮らす高齢者を応援し、地域で介護予防意識を普及啓発する人材を養成した。</p> <p>* 6月～ 1回/月 コミュニケーション術、健康法の情報交換など</p> <p>* 参加申込者 60名(内新規22名)</p> <p>* 修了生の内 30%が介護啓発に参加する意思</p>
16	地域ボランティア制度 【新設】【受託-町】	<p>地域ボランティア制度への登録をきっかけに地域福祉に目を向けてもらえるよう、登録説明会では地域福祉に関して意見交換する時間を設けた。</p> <p>* 地域ボランティア制度運用開始にむけた行政との打ち合わせ 3回(4/15, 6/24, 7/23)</p> <p>* 広報活動/広報とういん7月号、ホームページ、PRチラシ作成</p> <p>* 地域ボランティア制度意見交換会/1回</p> <p>* 7月1日から運用開始</p> <p>* 登録者説明会の開催/5回(7/28, 9/29, 10/21, 11/25, 1/26, 3/30)</p> <p>* 登録状況/活動者35名・活動先17箇所</p> <p>* 登録者意見交換会/1回(3/30)</p>
17	家族介護継続支援事業・家族介護教室 【受託-町】	<p>介護から一時的に離れる機会を提供したり、適切な介護方法を伝えることで、家族の身体的精神的負担を軽減した。</p> <p>* 事業を身近に感じていただくためのメール会員登録.. 登録者 10名</p> <p>* マッサージなどリフレッシュルーム、オムツ教室などの家族介護教室 1回/月 開催 延べ参加人数 51名</p> <p>* 実施の際は必ず座談会を催して交流を促した。</p>

18	ひとり親家庭 ふれあい交流 会【共】	<p>ひとり親家庭間の情報交換や絆づくり、親子の思い出づくりを目的にテーマパークへの旅行を開催した。</p> <p>* 企画会議 日 時 6月6日(金) 会 場 ふれあいセンター テーマ ひとり親家庭交流会の企画内容 参加者 ひとり親家庭の母親、母子寡婦福祉会会長、社協</p> <p>* 交流会実施前の交流会 日 時 9月19日(金) 会 場 ふれあいセンター テーマ ひとり親家庭交流会の企画内容、今後について 参加者 ひとり親家庭の母親、母子寡婦福祉会会長、社協</p> <p>* 交流会 日 時 10月31日(金)～11月2日(日) 行き先 東京ディズニーシー 参加者 44人(17世帯)</p>
19	心配ごと相談 所	<p>一般相談員（有資格者・学識経験者・民生委員）があらゆる相談に応じ、適切な助言や専門機関等の紹介を行った。また、一般相談の中で傾聴ボランティアの依頼があり社協が傾聴ボランティアを手配した。</p> <p>* 毎月5日（土・日・祝の場合は翌日）及び第3日曜日 一般相談開催回数 24回 相談件数 4件</p>
20	当事者団体等 の育成支援	<p>① 東員町遺族会 県戦没者追悼式の参加支援、町戦没者追悼式の開催協力 会費、初穂料等の受付代行、行政との連絡調整等</p> <p>② 東員町障がい児（者）を守る会 役員会への参加、ボランティア募集等の広報支援</p> <p>③ 東員障がい児者友の会 各種事業の企画・開催支援、広報活動の支援等</p> <p>④ 東員町母子寡婦福祉会 総会、交流会の開催支援</p> <p>⑤ 東員町シニアクラブ連合会 理事会・企画委員会への参加、各種事業の開催・広報活動の支援 県老人クラブ連合会事業への参加支援、行政との連絡調整等</p>
21	地域で子育て 支援事業 【共】	<p>子育ての当事者が仲間を作り、また、住民が子育て支援活動を通して自身の生きがいを作れるよう、地域を拠点に各種事業を実施した。</p> <p>(1)子育て応援ルームの運営 開催日 月・水/週 ・ 延べ93日 会場 ふれあいセンター2階 参加者 延べ1,048人</p> <p>(2)イベントの開催 開 催 概ね月1回 会 場 ふれあいセンター2階、笹尾コミュニティセンター(9月)</p>

		<p>内 容 救命講習会、リズム遊び、七夕まつり、クリスマス会等 (3)子育て支援ネット会議への参加 開 催 概ね月1回</p>
22	看取り介護の啓発	<p>在宅で看取りができることを周知し「地域で生ききる」意識を啓発する。 * いなべと東員の保険者が合同で取り組む、いなべ・介護連携研究会に、一年を通して出席し、連携の在り方を学んだ。 * ケアマネが担当する利用者に対して、平成26年11月の行われた町民向けの看取りの講演会を案内した。又、支援をする中で在宅での看取りについても積極的に相談に乗った。 * 健康塾の塾生に対して、2月20日に看取りに関する勉強会を実施した。</p>
23	災害ボランティアセンター研修事業	<p>災害時に限らず、日頃から要援護者に対するあたたかい視点を多くの人が共有できるよう、センターの啓発、つながりづくり（交流会）、災害ボランティア活動等を実践した。</p> <p>① 企画会議の開催(11回) 参加メンバー/民生委員、障がい当事者、福祉事業関係者、行政、防災NPO関係者など</p> <p>② 災害ボランティアセンター開設訓練・センター啓発活動の実施 9月7日(日) 東員町総合防災訓練内で実施 16名参加</p> <p>③ 兵庫県丹波市災害ボランティア活動の企画、実施 9月2日(火) 13名参加</p> <p>④ 全国ボランティアフェスティバルぎふ 分科会参加 9月28日(日) 2名参加</p> <p>⑤ 災害ボランティアセンターフォーラムの開催 目 的 センターの常設化に向けて、センターの趣旨、取組内容等をPRし、センター運営への参画を促す。 日 時 平成27年2月15日(日) 14:00～16:30 場 所 東員共同福祉施設 2階多目的ホール 内 容 基調講演、センター紹介、交流グループワーク 講 師 栗田暢之氏(NPO法人レスキューストックヤード代表理事) 参加者 81名 (シニアカレッジ15名 民生委員15名 ボランティア関係13名 障がい児者6名 議員2名 自治会関係者8名 社会福祉法人職員12名 その他10名)</p>
24	町内福祉事業所連絡協議会の創設【新設】	<p>町内福祉事業所間の情報交換と福祉職員の資質向上、地域の福祉課題解決のため、分野を超えた福祉専門機関のネットワークをつくった。</p> <p>* 5月22日 連絡協議会設立準備会(25年度運営会議のメンバー) * 6月27日 連絡協議会設立総会、第1回研修会に向けての運営会議 * 7月15日 // * 8月6日 東員町福祉事業所連絡協議会設立総会、第1回研修会「顔を合わせて関係づくり」参加者87名 * 10月9日 運営会議 平成27年度事業計画 平成27年 * 1月16日 運営会議 第2回研修会 平成27年度研修事業</p>

		<p>* 3月9日 第2回研修会 「福辺流 力のいらない介護技術」 参加者73名</p>
25	障がい者(児)の地域生活に関する学習	<p>地域課題への気づきを助長するため、重度障がい者(児)の地域生活を学ぶ学習会を、地域福祉推進の要になる民生委員を対象に行った。</p> <p>日 時 10月15日(水) 会 場 保健福祉センター大会議室 参加者 民生委員51人</p>
26	東員町共同募金委員会の活動支援	<p>誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、住民自ら地域を作る活動を財源面から支援する共同募金運動の広報活動と東員町共同募金委員会の運営を事務局として支援した。</p> <p>(1)広報 * 『ふくしのわ』、ホームページで運動情報を発信 * 啓発ポスター、チラシを町内各所へ配架 * 募金目標額でなく、共同募金の趣旨や用途に特化した町独自のPRチラシを作成 * 共同募金出前説明会(大木自治会、神田小学校)</p> <p>(2)助成 * 積極的公募した結果、平成27年度助成分から助成先が5団体増加した。</p> <p>(3)運営 * 運営委員会(5回)、審査委員会(1回)の開催 * 三重県共同募金会主催の会議に参加 2回</p> <p>(4)募金運動 ① 共同募金運動への参画依頼等 * 東員町自治会長会 8月19日(火)、8月21日(木) * 東員町商工会理事会、東員町シニアクラブ連合会理事会 * 東員町校長会、東員町園長会 * ハートフルベンダー設置</p> <p>② 共同募金運動実績 * 実績合計 3,846,996円(目標額3,531,300円 達成率108.9%) * 戸別募金 3,011,106円(6,023件)(昨年比98%) * 街頭募金 58,314円(30件)(昨年比202%) * 法人募金 529,000円(52件)(昨年比104%) * 職域募金 62,537円(23社)(昨年比375%) * イベント募金 140,917円(14件)(昨年比61%) * 個人募金 36,909円(6件)(昨年比233%) * その他(ハートフルベンダー等) 8,213円(3件)</p> <p>(5)東員町共同募金のつどいの開催 目 的 助成内容をわかりやすく具体的に伝え、共同募金の趣旨の浸透と、寄付者と助成先のマッチングを図る。 日 時 平成27年3月21日(祝) 13:00~15:10 会 場 東員町保健福祉センター 1階ホール 内 容 基調講演、募金の使いみち発表</p>

講 師 板井正齊氏（皇學館大学准教授）

参加者 92名

Ⅲ. サービス利用支援生活支援部門

地域福祉を推進するために、住み慣れた地域で自立した生活が送れるように支える事業として、権利擁護事業、公的貸付による生活支援を行った。

【共】＝共同募金配分金事業

実施項目	概要
1 総合型介護予防事業【町-受託】	<p>地域包括支援センターで選定された特定高齢者に対し、複合型プログラムを実施。効果測定により効果的なサービスを提供。</p> <p>利用者に講座の終了まで継続的に参加してもらうことができた。</p> <p>要支援・要介護状態になることを防ぐことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 月・水・金曜日に開催 * 1回/月 地域包括支援センターとケース検討 * 通所介護予防事業 42回/4～3月 延べ参加人数 724名 * はつらつ教室 48回/5～3月 延べ参加人数 430名 * 生活体力づくり 48回/5～3月 延べ参加人数 344名
2 福祉有償運送【新設】	<p>外出困難な要介護者や身体障がい者を対象に、福祉車両による通院等の移送・送迎サービスを実施した。</p> <p>広 報 町内居宅支援事業所宛てのチラシ ホームページ、『ふくしのわ』</p> <p>開 始 平成26年4月1日(火)</p> <p>対象者 要介護者 身体障がい者</p> <p>使用車両 福祉車両2台 セダン型1台</p> <p>利用者 6名 延べ利用回数 42回 (4～3月)</p>
3 介護タクシー助成事業【共】	<p>要支援者に介護タクシー券(年間2,000円分)を発行し、在宅高齢者の外出を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 2,000円助成/年 * 27名申請 協力事業所7事業所
4 地域権利擁護事業	<p>日常金銭管理を生活支援員と共に行った。ケースの中には相談支援員や行政職員と共同して実施することもあり、その方にとって最適な方法を模索しながら支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 権利擁護事業利用者3名 * 生活支援員2名(男性1名 女性1名) * 相談件数 2件
5 日常的な金銭管理サービス事業	<p>判断能力のある概ね65歳以上の高齢者や20歳以上の身体障がい者等を対象に、金融機関手続きを代行するものだが、現在利用はない。</p> <p>相談件数 3件</p>
6 公的資金貸付による生活支援(生活福祉資金事務【受託-県社協】)	<p>生活福祉資金貸付、生活費についての相談対応、申請、償還指導等を行った。昨今増加している生活保護費受給までの生活費の貸付を簡便にできないか、行政生活保護担当課と検討した結果、これまで通り県社協の緊急小口資金を利用することになった。</p> <p>三重県社会福祉協議会に、三重県生活相談支援センターが開設されたため相談員と共に面談することもあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 利用相談 9件 ② 調査委員会 1件(福祉費の利用)

		③ 貸付決定 福祉費 54,000円(1件) 緊急小口資金 480,000円(8件) ④ 完済 福祉資金 6件 ⑤ 滞納者面談 総合支援資金 1件(就学援助の申請を支援した) ⑥ 貸付状況 福祉費 2件 緊急小口資金 11件 教育支援資金 5件 総合支援資金 1件 ⑦ 償還率 福祉資金 95.6% 緊急小口資金 42.7% 教育支援資金 98.2% 総合支援資金 0%
7	車いす・スロープ無料貸出 【共】	短期間あるいは緊急に車いす等が必要な方に無料で貸し出した。また、そこで得た情報を民生委員に提供し、地域の福祉支援に役立てた。 貸出件数 車いす77件 スロープ3件 貸出理由 通院23件 買い物4件 一時退院5件 お出かけ12件 旅行12件 通学2件 その他19件(選挙・勉強会) 車椅子貸出 29回 スロープ貸出 0回
8	無料弁護士相談所の開設	法律的な相談に対し、弁護士が適切なアドバイスや専門機関を紹介した。 * 毎月5日(土・日・祝の場合は翌日)及び第3日曜日 弁護士相談開催回数 24回 相談件数 83件

IV. 介護保険サービス・障がい者福祉サービス部門

可能な限り住み慣れた在宅で生活できるように、利用者や介護者のニーズに応じたケアプランの作成を行った。通所介護では重度や医療依存度の高い利用者の受け入れを行い、訪問介護では365日早朝夜間の依頼に応じ、利用者のニーズに応えた。課題としては、各部署ともに入所や死亡が新規依頼件数を上回り、利用者減となった。

実施項目	概要
1 訪問介護事業 介護予防訪問介護事業	要介護及び要支援認定を受けられた方が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、「身体介護」「生活支援」のサービスを365日、早朝夜間対応し、利用者が安心できる体制を整えている。また、定期的に内部研修を行い、外部研修にも積極的に参加した。
2 通所介護事業 介護予防通所介護事業	要介護及び要支援認定を受けられた利用者の方に入浴、給食、日常生活の援助、機能訓練等のサービス提供を行った。新規の中重度利用者の受け入れを積極的に行い、地域の住民の方との関わりを作るために麻雀、将棋倶楽部を週1回開催し利用者様のモチベーションアップに努めた。
3 居宅介護支援事業	要介護状態等になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるように、利用者の意志と人格を尊重したプラン作りに取り組むなかで、支援員を1名増員し受け入れ拡大をめざし、加算Ⅱの居宅支援事業所として24時間体制強化をはかった。
4 障がい児者訪問介護事業	障害者総合支援法に基づいて認定を受けた方が、可能な限り自立した日常生活を営むことができるように「身体介護」「家事援助」のサービスを提供した。利用実績は毎年、増えている。
5 日中一時支援事業	障がいのある方に入浴や食事、日中活動の場の提供を行った。ご家族のニーズに合わせた定期的利用や学校等の長期休暇時の突発の受け入れにも積極的に対応した。
6 障がい児・者のサービス等利用計画の作成	身体・療育・精神障がい者・障がい児の希望する自立に向けた日常生活又は社会生活を営むことができるようにサービス等利用計画の作成を通して支援を行う。サービス利用者及び新規利用者への計画作成に取り組み、外部研修にも参加した。